

メジャー企業 5 社の 2019 年第 2 四半期決算について

(各社ホームページ、報道等)

- メジャー企業 5 社の 2019 年第 2 四半期決算は、アナダルコ社買収契約キャンセルにより 10 億ドルの収入を計上した Chevron を除き、前年同期比で減収減益となった。石油・天然ガス価格低下の影響を受けている点は各社に共通しているが、パーミアンにおけるシェールオイル生産が増加した ExxonMobil と Chevron、新規開発プロジェクトの投資決定が進む BP、天然ガス・LNG 価格低下の影響を相対的に大きく受けた Shell と Total など、個社別に特徴的な要因も見られる。
- M&A を含めたシェール開発や LNG 事業への設備投資と共に、メジャー企業各社は米国メキシコ湾・中南米・アフリカ・北海など深海油ガス田の探鉱開発への取り組みを強化している。石油・天然ガス価格の先行きが不透明な中、多額の設備投資を必要とする LNG 事業、気候変動問題・エネルギー移行への対応に加えて、有利子負債の削減などの財務的な課題への対応も求められており、これらのバランスを取ることが一段と重要になっている。

1 はじめに

メジャー企業 5 社(ExxonMobil、Royal Dutch Shell、BP、Chevron、Total)の 2019 年第 2 四半期決算は、アナダルコ社買収契約キャンセルのペナルティとしてオクシデンタルから受け取った 10 億ドルを収入として計上した Chevron が増益となったのを除き、いずれも前年同期と比べて減収減益となった。各社に共通の要因として、石油・天然ガス価格が低下したが石油・天然ガス生産は増加していることがあげられる。

2014 年後半以降の低油価局面においてメジャー企業各社は精製・販売など中下流事業部門の貢献により利益水準を維持し、財務内容の強みを活かした資金調達や M&A により割安になった上流権益を取得しつつ LNG 事業や低炭素化技術・再生可能エネルギーへの投資を拡大するなどのポートフォリオの組み換えに取り組んできた。

多額の設備投資を必要とする LNG 事業の占めるウェイトが増す中で、天然ガス・LNG 価格の低下や有利子負債の削減などの財務上の要請とシェール開発や深海における石油・天然ガスの探鉱開発への取り組みを強化することによりメジャー企業が対応しようとしている課題について、決算関連

Global Disclaimer(免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構(以下「機構」)調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用である旨を明示していただきますようお願い申し上げます。

プレスリリースを基に検討してみたい。

2 決算概要

1) ExxonMobil

2019 年第 2 四半期の売上高は 690.9 億ドルとなり前年同期 735.0 億ドルから 6%減少、純利益も 39.5 億ドルから 31.3 億ドルへ 21%減少した。生産量については、石油が 238.9 万 b/d となり前年同期 221.2 万 b/d から 8%増加、天然ガスも 86.1 億 cf/d から 91.2 億 cf/d に 6%増加した。2017 年にバース・ファミリーから買収したパーミアンの資産の開発が進んだために生産量は増加したが、石油・天然ガスの価格下落と精製・石化事業のマージン低下が減収減益につながった。

南米ガイアナ沖の開発プロジェクト Liza では Phase 1 が 2020 年第 1 四半期に生産開始予定、Phase 2 の計画も進行中で 2022 年に生産を開始し 2025 年に 75 万 b/d を超える生産を見込んでいる。またアルゼンチンの Vaca Muerta シェール、アンゴラ沖 Block 15 鉱区でも生産拡大を予定している。探鉱活動も強化しており、ガイアナ沖で 13 番目の油井 Yellowtail-1 を発見、Stabroek 鉱区の推定可採埋蔵量を 55 億から 60 億 boe に上方修正した。さらにアルゼンチン沖でカタール石油と共同して 260 万 net acre、ナミビア沖では 700 万 net acre の探鉱鉱区を新たに獲得している。

石油化学事業では低マージンの状況が続いているものの収益性はやや改善しており、サウジアラビア基礎産業公社(SABIC)と合弁で米国メキシコ湾岸に石化プラントの建設を決定した。シンガポール、英国の製油所における設備拡張・高度化投資を最終決定している。また ENI・CNPC と協働する Rovuma LNG プロジェクトの開発計画がモザンビーク政府の承認を得て、2019 年中に 2 トレイン・15 百万トン／年の液化天然ガス製造設備を最終投資決定する予定である。

パーミアンにおけるシェール開発については、すでに 100 億バレル相当の資源を確保しているため当面は資産買収や企業買収を行う必要はなく、これらの開発により現状 22.6 万 boe/d の生産量を 2024 年までに 1 百万 boe/d まで拡大する計画を実現できるとしている。米国エネルギー省と協働して低炭素排出技術の研究開発に 10 年間で 1 億ドルの投資する計画を発表、バイオ燃料や炭素回収貯蔵技術の実用化に向けた取り組みも強化している。

Global Disclaimer(免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構（以下「機構」）調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用であることを明示していただきますようお願い申し上げます。

【ExxonMobil:決算概要】

	(決算期)	2016	2017	2018	2018Q1	2018Q2	2018Q3	2018Q4	2019Q1	2019Q2	19Q2/18Q2
生産量											
石油	Mbbl/d	2,365	2,283	2,266	2,216	2,212	2,286	2,348	2,327	2,389	8%
天然ガス	MMcf/d	10,127	10,211	9,405	10,038	8,613	9,001	9,974	9,924	9,120	6%
合計	MBoe/d	4,053	3,985	3,833	3,889	3,647	3,786	4,010	3,981	3,909	7%
埋蔵量											
石油	MMbbl	10,557	12,029	15,657	-	-	-	-	-	-	
天然ガス	MMcf	56,503	55,151	51,816	-	-	-	-	-	-	
合計	MMBoe	19,974	21,221	24,293	-	-	-	-	-	-	
可採年数											
		13.5	14.6	17.4	-	-	-	-	-	-	
LNG液化量 百万トン											
石油精製量	千b/d	4,269	4,291	4,272	4,293	4,105	4,392	4,298	3,886	3,930	-4%
製油所能力	千b/d	4,907	4,918	4,724	-	-	-	-	-	-	
石油販売量	千b/d	5,482	5,530	5,512	5,432	5,502	5,616	5,495	5,415	5,408	-2%
損益計算書 百万ドル											
売上高		208,114	244,363	290,212	68,211	73,501	74,187	71,895	63,625	69,091	-6%
営業利益		-	-	-	-	-	-	-	-	-	
当期純利益		7,840	19,710	20,840	4,650	3,950	6,240	6,000	2,350	3,130	-21%
貸借対照表											
流動資産		41,416	47,134	47,973	48,315	50,555	53,975	47,973	51,576	51,743	2%
固定資産		288,898	301,557	298,223	300,511	298,235	300,653	298,223	304,613	308,986	4%
総資産		330,314	348,691	346,196	348,826	348,790	354,628	346,196	356,189	360,729	3%
流動負債		47,638	57,771	57,138	60,306	62,447	65,288	57,138	66,632	70,287	13%
固定負債		115,351	103,232	97,264	100,325	99,121	98,975	97,264	98,335	45,196	-54%
有利子負債		42,762	42,336	37,796	40,617	41,220	40,037	37,796	40,825	60,481	47%
純資産		167,325	187,688	191,794	188,195	187,222	190,365	191,794	191,222	191,377	2%
キャッシュフロー											
営業CF		22,082	30,066	36,014	8,519	7,780	11,108	8,607	8,338	5,947	-24%
設備投資		19,304	23,080	25,923	4,867	6,627	6,586	7,843	6,890	8,079	22%
フリーCF		9,679	15,953	19,541	5,904	3,648	5,900	3,087	1,778	1,849	-49%
時価総額		374,398	354,550	288,921	315,886	350,263	359,958	288,771	341,865	324,222	-7%
従業員数	人	71,100	69,600	71,000	-	-	-	-	-	-	

出所:決算報告プレスリリース

Global Disclaimer(免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構（以下「機構」）調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用であることを明示していただきますようお願い申し上げます。

2) Royal Dutch Shell

第2四半期の売上高は905.4億ドルとなり前年同期967.7億ドルから6%減少、純利益も46.9億ドルから34.6億ドルへ26%減少した。生産量については、石油が184.2万b/dとなり前年同期173.0万b/dから6%増加、天然ガスも99.3億cf/dから101.0億cf/dに2%増加した。石油・天然ガス価格の下落、精製・石化マージンの低下の影響が生産量増加を上回ったために減収減益となったが、第2四半期には米国メキシコ湾の洋上生産設備 Appomattox が操業を開始したほか、豪州の FLNG プロジェクト Prelude が LNG カーゴを初出荷するなどの成果があがっている。

ブラジル沖 Mero 油田開発で Shell が 20%出資する Libra コンソーシアムが FPSO の建造の投資決定を行った。また米国メキシコ湾では PowerNap などの投資決定が相次いでおり(2014 年発見、2021 年生産開始予定、ピーク生産量 35,000 boed)、他社の油ガス田でも FID が進んでいることから Shell の保有する生産設備や原油・製品パイプラインの稼働率向上が期待される。探鉱においても Blacktip を発見・評価中(52.4%出資)など取り組みが強化されている。

米中貿易摩擦等の影響により米国メキシコ湾の石油化学事業の採算が低下、欧州でも精製マージンが低下している。ガス事業部門の利益は米中貿易摩擦アジア市場の需要減、LNG スポット価格の低下により 33.6 億ドルから 13.4 億ドルに 60%減少している。天然ガス・LNG の生産は前年同期比 2%増加したが価格の低下により採算が低下した。

事業ポートフォリオの入れ替えが進んでおり、米国メキシコ湾で 22.5%出資する上流権益 Caesar Tonga を Equinor、カリフォルニアの Martinez 製油所を独立系の PBF Energy に売却することで合意した一方、太陽光発電・エネルギー供給の Sonnen の買収に加え、洋上風力発電、電気自動車充電、水素等の技術開発への取り組みも強化されている。

Global Disclaimer(免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構(以下「機構」)調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用である旨を明示してくださいようお願い申し上げます。

【Shell:決算概要】

	(決算期)	2016	2017	2018	2018Q1	2018Q2	2018Q3	2018Q4	2019Q1	2019Q2	19Q2/18Q2
生産量											
石油	MBbl/d	1,838	1,825	1,803	1,785	1,730	1,810	1,885	1,854	1,842	6%
天然ガス	MMcf/d	10,613	10,668	10,805	11,912	9,930	10,362	11,035	11,007	10,096	2%
合計	MBoe/d	3,668	3,664	3,666	3,839	3,442	3,596	3,788	3,752	3,583	4%
埋蔵量											
石油	MMBbl	6,258	5,265	5,437	-	-	-	-	-	-	
天然ガス	MMcf	40,541	40,432	35,615	-	-	-	-	-	-	
合計	MMBoe	13,248	12,233	11,373	-	-	-	-	-	-	
可採年数											
		9.9	9.1	8.5	-	-	-	-	-	-	
LNG液化量	百万トン	30.88	33.24	34.32	8.90	8.46	8.18	8.78	8.74	8.66	
石油精製量	千b/d	2,701	2,572	2,648	2,637	2,557	2,675	2,723	2,666	2,632	3%
製油所能力	千b/d	3,086	2,932	2,913	-	-	-	-	-	-	
石油販売量	千b/d	6,483	6,599	6,783	6,785	6,745	6,697	6,906	6,467	6,608	-2%
損益計算書 百万ドル											
売上高		233,591	305,179	388,379	89,235	96,765	100,151	102,228	83,735	90,544	-6%
営業利益		-	-	-	-	-	-	-	-	-	
当期純利益		7,185	15,764	21,404	5,401	4,691	5,624	5,688	5,301	3,462	-26%
貸借対照表											
流動資産		86,569	95,404	97,482	98,046	103,512	107,246	97,482	95,990	93,096	-10%
固定資産		324,706	311,693	301,712	312,673	303,722	300,743	301,712	315,835	315,794	4%
総資産		411,275	407,097	399,194	410,719	407,234	407,989	399,194	411,825	408,891	0%
流動負債		73,825	79,767	77,813	81,589	81,521	89,746	77,813	82,845	84,317	3%
固定負債		150,804	132,974	122,735	131,799	128,394	120,710	122,735	132,656	132,296	3%
有利子負債		93,599	85,665	76,824	88,022	80,471	78,378	76,824	92,541	92,646	15%
純資産		186,646	194,356	198,646	197,331	197,319	197,533	198,646	196,325	192,278	-3%
キャッシュフロー											
営業CF		20,615	35,650	53,085	9,472	9,500	12,092	22,021	8,630	11,031	16%
設備投資		79,877	24,006	24,779	5,183	5,771	5,830	7,995	6,685	6,341	10%
フリーCF		3,897	11,871	20,004	7,543	7,697	6,386	3,878	8,614	6,237	-19%
時価総額		223,824	241,331	241,331	265,056	289,332	284,911	241,331	255,671	263,846	-9%
従業員数(人)		89,000	84,000	81,000	-	-	-	-	-	-	

出所:決算報告プレスリリース

Global Disclaimer(免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構（以下「機構」）調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用であることを明示していただきますようお願い申し上げます。

3) BP

第2四半期の売上高は726.8億ドルとなり前年同期の754.4億ドルから4%減少、純利益は28.0億ドルから18.2億ドルへ35%減少となった。生産量については、石油が221.3万b/dとなり前年同期212.6万b/dから4%増加、天然ガスも85.0億cf/dから89.3億cf/dに5%増加した。英領北海Culzeanプロジェクトが生産を開始したほか、前期に稼働した米国メキシコ湾、エジプト、トリニダード・トバゴなどの油ガス田とBHPから買収したシェール事業BPX Energyの生産増加が寄与した。

設備投資は56.5億ドルとなり、第2四半期には米国メキシコ湾Thunder Horse South Expansion Phase 2とインドのBlock KG-D6が最終投資決定したほか、アンゴラ沖のBlock 15にも追加の投資を決定しており、第1四半期にFIDした英領北海とアゼルバイジャンと併せてFIDのピッチが上がっている。

米国メキシコ湾(King Embayment)で発見があったほか、セネガル沖Tortue Ahmeyim-1とトリニダード・トバゴで評価井を掘削している。アルゼンチン沖、ガンビア沖、英領北海西シエトラント諸島、西豪州沖の探鉱区にも参加しており、探鉱活動も活発化している。

第2四半期の石油精製量は159.7万b/dとなり前年同期の168万b/dから5%減少、精製マージンが低下し石油製品販売量も2%減少している。LNG事業ではインドネシアTangguh LNGプロジェクトで第3トレインを建設中であるが、新規天然ガス液化事業への投資は限定的である。

BHPから買収したBPX Energyが本格稼働しており、2020年まで100億ドル規模の資産売却によりポートフォリオの入れ替え計画が進行中である。ブラジルのバイオ燃料事業でBungeと50-50出資の合弁事業に投資、Lightsource(43%出資)を通じてブラジルで太陽光発電事業に参入、BP Chargemasterが英国で高速EV充電事業に参入、その他、BP Ventureによる中国のEV充電や飼料事業に投資するなど再生可能エネルギー・エネルギー移行への対応も進んでいる。他方、メキシコ湾原油流出事故関連の支出6億ドルが残ること、有利子負債は前年604億ドルから779億ドルに増加している。

Global Disclaimer(免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構(以下「機構」)調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用であることを明示していただきますようお願い申し上げます。

【BP:決算概要】

	(決算期)	2016	2017	2018	2018Q1	2018Q2	2018Q3	2018Q4	2019Q1	2019Q2	19Q2/18Q2
生産量											
石油	MBbl/d	2,048	2,261	2,191	2,221	2,126	2,149	2,267	2,236	2,213	4%
天然ガス	MMcf/d	7,075	7,744	8,659	8,770	8,504	8,478	8,886	9,199	8,930	5%
合計	MBoe/d	3,268	3,595	3,683	3,732	3,592	3,611	3,800	3,769	3,701	3%
埋蔵量											
石油	MMBbl	10,333	10,672	11,456	-	-	-	-	-	-	
天然ガス	MMcf	43,368	45,059	49,239	-	-	-	-	-	-	
合計	MMBoe	17,810	18,441	19,663	-	-	-	-	-	-	
可採年数	年	14.9	14.1	14.6	-	-	-	-	-	-	
LNG販売量											
石油精製量	千b/d	1,685	1,702	1,725	1,761	1,680	1,793	1,666	1,739	1,597	-5%
製油所能力	千b/d	1,880	1,892	1,890	-	-	-	-	-	-	
石油販売量	千b/d	5,600	5,948	5,930	5,803	6,020	5,979	5,916	5,886	5,884	-2%
損益計算書											
売上高	百万ドル	183,008	240,208	298,756	68,172	75,439	79,468	75,677	66,321	72,676	-4%
営業利益	百万ドル	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
当期純利益	百万ドル	115	3,389	9,383	2,469	2,799	3,349	766	2,934	1,822	-35%
貸借対照表											
流動資産	百万ドル	67,813	74,968	71,310	72,196	76,691	85,652	71,310	72,697	70,822	-8%
固定資産	百万ドル	195,503	201,547	210,866	203,091	198,935	197,290	210,866	220,584	221,619	11%
総資産	百万ドル	263,316	276,515	282,176	275,287	275,626	282,942	282,176	293,281	293,162	6%
流動負債	百万ドル	58,354	64,726	68,237	63,807	69,531	69,927	68,237	71,272	66,855	-4%
固定負債	百万ドル	109,676	113,298	114,495	111,293	106,274	111,527	114,495	120,810	124,822	17%
有利子負債	百万ドル	58,300	63,230	65,799	62,189	60,358	64,135	65,799	68,089	77,932	29%
純資産	百万ドル	95,286	98,491	99,444	100,187	99,821	101,488	99,444	101,199	101,485	2%
キャッシュフロー											
営業CF	百万ドル	10,691	18,931	22,873	3,646	6,306	6,092	6,829	5,296	6,815	8%
設備投資	百万ドル	17,452	17,840	25,088	3,963	3,825	4,404	12,896	5,635	5,654	48%
フリーCF	百万ドル	63	11,314	16,420	4,513	4,578	5,860	1,469	5,431	4,355	-5%
時価総額	百万ドル	121,891	139,776	126,659	134,168	151,944	153,995	126,659	148,090	142,000	-7%
従業員数	人	74,500	74,000	73,000	-	-	-	-	-	-	

出所:決算報告プレスリリース

Global Disclaimer(免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構（以下「機構」）調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用である旨を明示していただきますようお願い申し上げます。

4) Chevron

第2四半期の売上高は363.2億ドルと前年同期404.9億ドルから10%減少したが、純利益は前年同期34.1億ドルから43.1億ドルへ26%増加した。生産量については、石油が186.3万b/dとなり前年同期172.3万b/dから8%増加、天然ガスも66.2億cf/dから73.2億cf/dで11%増加となり、米国パーミアンのシェール開発の進捗とWheatstoneなど豪州LNGプロジェクトの生産増加により過去最高水準を記録した。

石油・天然ガスの価格が低下し減収となったものの、アナダルコ社買収契約のキャンセルフィー収入10億ドルをオキシデンタルから受け取ったために、メジャー企業中で唯一、前年同期比で増益となった。

米国メキシコ湾におけるBallymoreやAnchorの投資決定を2020年に予定しているほか、Jack/St. MaloやPerdido周辺の開発も検討している。ShellのPerdido周辺における探鉱でも発見があり、現在評価中であり、シェールの続く開発計画が進行している。

下流事業でも米国の石油精製事業をテキサス州パサデナ製油所買収などにより増強している。前年同期比では南アフリカの製油所の売却などにより減益となっている。LNG関連ではWheatstone、Gorgonに続く新規のLNGプロジェクトが注目されていたところ、アナダルコ社の買収がキャンセルになったために逃したモザンビークLNGプロジェクトに代わる新たな投資先がどこになるのか注目される。

テキサス州のパサデナ製油所をペトロブラスから買収、50%出資するChevron Phillips Chemicalが米国メキシコ湾とカタールで石油化学プロジェクトに投資決定、2024・2025年の操業開始を予定しているほか、低炭素、エネルギー移行対応関連ではカリフォルニア州で再生可能ガス事業への投資を決定、パーミアンのシェール開発に再生可能エネルギーを使用するなど取り組みを強化している。

Global Disclaimer(免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構（以下「機構」）調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用であることを明示していただきますようお願い申し上げます。

【Chevron:決算概要】

	(決算期)	2016	2017	2018	2018Q1	2018Q2	2018Q3	2018Q4	2019Q1	2019Q2	19Q2/18Q2
生産量											
石油	MBbl/d	1,719	1,723	1,782	1,753	1,723	1,787	1,862	1,875	1,863	8%
天然ガス	MMcf/d	5,252	6,032	6,889	6,593	6,616	7,012	7,328	6,975	7,327	11%
合計	MBoe/d	2,594	2,728	2,930	2,852	2,826	2,956	3,083	3,038	3,084	9%
埋蔵量											
石油	MMBbl	6,328	6,542	6,790	-	-	-	-	-	-	
天然ガス	MMcf	28,760	30,736	31,576	-	-	-	-	-	-	
合計	MMBoe	11,121	11,665	12,100	-	-	-	-	-	-	
可採年数	年	11.7	11.7	11.3	-	-	-	-	-	-	
LNG液化量	百万トン										
石油精製量	千b/d	1,688	1,661	1,611	1,642	1,595	1,625	1,583	1,530	1,559	-2%
製油所能力	千b/d	1,793	1,738	1,627	-	-	-	-	-	-	
石油販売量	千b/d	2,675	2,690	2,655	2,621	2,718	2,669	2,611	2,606	2,541	-7%
損益計算書											
売上高	百万ドル	110,215	134,674	158,902	35,968	40,491	42,105	40,338	34,189	36,323	-10%
営業利益	百万ドル	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
当期純利益	百万ドル	-497	9,195	14,824	3,638	3,409	4,047	3,730	2,649	4,305	26%
貸借対照表											
流動資産	百万ドル	29,619	28,560	34,021	31,726	34,256	35,583	34,021	33,671	33,087	-3%
固定資産	百万ドル	230,459	225,246	219,842	224,716	223,673	246,860	219,842	223,138	222,791	0%
総資産	百万ドル	260,078	253,806	253,863	256,442	257,929	256,606	253,863	256,809	255,878	-1%
流動負債	百万ドル	31,785	27,737	27,171	30,630	31,862	29,183	27,171	29,951	28,829	-10%
固定負債	百万ドル	82,737	77,945	72,138	75,456	73,869	103,031	72,138	71,813	70,654	-4%
有利子負債	百万ドル	46,126	38,763	34,459	39,745	38,517	35,975	34,459	33,087	30,649	-20%
純資産	百万ドル	145,556	148,124	154,554	150,356	152,198	153,575	154,554	155,045	156,395	3%
キャッシュフロー											
営業CF	百万ドル	12,846	20,515	30,618	5,043	6,855	9,600	9,151	5,057	8,743	28%
設備投資	百万ドル	22,428	18,821	20,106	4,405	4,816	5,124	5,761	4,734	5,288	10%
フリーCF	百万ドル	-4,006	10,211	18,780	4,195	4,112	6,439	4,034	3,556	4,716	15%
時価総額	百万ドル	222,630	238,450	207,010	217,926	242,258	233,650	207,010	225,741	229,977	-5%
従業員数	人	55,200	51,900	48,600	-	-	-	-	-	-	

出所:決算報告プレスリリース

Global Disclaimer(免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構（以下「機構」）調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用である旨を明示していただきますようお願い申し上げます。

5) Total

第2四半期の売上高は512.4億ドルと前年同期の525.4億ドルから2%減少、純利益も37.2億ドルから27.6億ドルへ26%減少した。生産量については、石油が162.4万b/dとなり前年同期158.2万b/dから3%増加、天然ガスも61.8億cf/dから74.8億cf/dに21%増加した。アンゴラのKaombo Sul、ナイジェリアのEgina、英領北海Culzeanの生産開始、ロシアのYamal LNG、豪州のIchthys LNGの本格稼働、Maersk Oilの買収効果などにより、石油・天然ガス生産は前年同期271.7万boedから295.7boedに9%増加した。

南アフリカ沖Brulpaddaの探鉱で大規模な資源を発見したほか、英領北海Glengormでも新規の発見があった。パプアニューギニアでは天然ガス開発に取り組んでいるほか、ブラジル沖Mero油田の第2期、カザフスタン陸上Dunga油田の第3期開発計画にも着手するなど開発投資も活発化している。さらにオキシデンタルによるアナダルコ社の買収が成立したことで同社がアフリカに保有している資産をTotalが88億ドルで取得する予定である。

フランスLa Meda製油所においてバイオ燃料の製造を開始したほか、LNGでは米国Cameron LNG第1トレインが生産開始、東芝からFreeportなどのポートフォリオを買収し、TellurianのDriftwood LNGへの投資や中国のGuanghuiと長期契約を締結するなどLNG事業への取り組み強化が継続している。

低炭素、エネルギー移行対応関連としては、欧州でプラスチック・リサイクル事業のSynovaを買収、日本で2基目の太陽光発電を稼働したほか、買収したバッテリーメーカーSaftを通じて中国でリチウム・イオン・バッテリー製造の合弁事業を開始した。

有利子負債が540.2億ドルから616.2億ドルに増加しているが、2020年末までに高コストの上流資産を中心に50億ドル規模の資産売却する計画の実現を優先するとしている。英領北海の成熟油田をプライベートエクイティに売却するなど具体的な動きも見られ、当面は操業する国・地域の絞り込みを行い事業ポートフォリオの入れ替えを進めると見られる。

Global Disclaimer(免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構(以下「機構」)調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用であることを明示していただきますようお願い申し上げます。

【Total:決算概要】

	(決算期)	2016	2017	2018	2018Q1	2018Q2	2018Q3	2018Q4	2019Q1	2019Q2	19Q2/18Q2
生産量											
石油	Mbbl/d	1,271	1,346	1,566	1,481	1,582	1,611	1,589	1,629	1,624	3%
天然ガス	MMcf/d	6,447	6,663	6,599	6,664	6,176	6,557	6,994	7,321	7,477	21%
合計	MBoe/d	2,452	2,566	2,775	2,703	2,717	2,804	2,876	2,946	2,957	9%
埋蔵量											
石油	MMBbl	5,414	5,450	6,049	-	-	-	-	-	-	
天然ガス	MMcf	32,984	32,506	32,325	-	-	-	-	-	-	
合計	MMBoe	11,518	10,868	11,437	-	-	-	-	-	-	
可採年数											
		12.9	11.6	11.3	-	-	-	-	-	-	
LNG販売量	百万トン	10.99	11.23	11.07	2.50	2.47	2.78	3.32	3.80	4.10	
石油精製量	千b/d	1,965	1,827	1,852	1,832	1,734	1,953	1,886	1,862	1,595	-8%
製油所能力	千b/d	2,011	2,021	n.a.	-	-	-	-	-	-	
石油販売量	千b/d	4,183	4,019	4,153	4,096	4,040	4,338	4,138	4,135	4,152	3%
損益計算書 (百万ドル)											
売上高		149,743	171,493	209,363	49,611	52,540	54,717	52,495	51,205	51,242	-2%
営業利益		-	-	-	-	-	-	-	-	-	
当期純利益		6,196	8,631	11,446	2,636	3,721	3,957	1,132	3,111	2,758	-26%
貸借対照表											
流動資産		72,517	84,948	79,799	81,985	79,858	87,324	79,799	81,752	82,976	4%
固定資産		158,461	157,683	176,963	175,031	172,147	176,978	176,963	183,111	184,524	7%
総資産		230,978	242,631	256,762	257,016	252,005	264,302	256,762	264,863	267,500	6%
流動負債		54,685	56,705	62,234	58,066	59,275	68,405	62,234	64,600	66,392	12%
固定負債		77,613	74,370	78,888	77,763	74,755	77,704	78,888	82,270	84,246	13%
有利子負債		56,987	52,436	53,435	55,166	54,021	56,268	53,435	58,302	61,615	14%
純資産		98,680	111,556	115,640	121,187	117,975	118,193	115,640	117,993	116,862	-1%
キャッシュフロー											
営業CF		16,521	22,319	24,703	2,081	6,246	5,736	10,640	3,629	6,251	0%
設備投資		20,530	16,896	22,185	6,724	3,787	6,484	5,190	3,587	3,896	3%
フリーCF		-1,132	8,587	7,298	-354	3,183	3,529	940	3,673	3,383	6%
時価総額		124,226	139,046	137,877	148,521	159,627	169,623	137,877	144,487	145,869	-9%
従業員数(人)		102,168	98,277	104,460	-	-	-	-	-	-	

出所:決算報告プレスリリース

3 財務動向

1) 価格変動等による業績への影響

アナダルコ社買収のキャンセルフィーとして10億ドルの収入があったChevronを除き、メジャー企業各社の2019年第2四半期純利益は前年同期比で減少した。パーミアンのシェールオイルが大きく増産されたExxonMobil・Chevron、新規開発プロジェクト投資を着実に拡大するなBPと比べて、事業ポートフォリオの天然ガス・シフトを進めてきたShellとTotalにとって天然ガス(LNG)価格低下の影響が相対的に大きくなった。

Global Disclaimer(免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構(以下「機構」)調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用である旨を明示していただきますようお願い申し上げます。

【2019 年第 2 四半期 前年同期比 増減率】

	ExxonMobil	RD Shell	BP	Chevron	TOTAL
生産量					
石油	8%	6%	4%	8%	3%
天然ガス	6%	2%	5%	11%	21%
合計	7%	4%	3%	9%	9%
損益計算書					
売上高	-6%	-6%	-4%	-10%	-2%
当期純利益	-21%	-26%	-35%	26%	-26%
貸借対照表					
有利子負債	47%	15%	29%	-20%	14%
キャッシュフロー					
設備投資	22%	10%	48%	10%	3%

出所:決算報告プレスリリース

2) 財務内容の変化

メジャー企業各社は、2014 年後半以降の低油価局面において中下流事業部門の収益力と安定した財務基盤の強みを発揮して、M&A による上流資産の獲得、中下流事業への設備投資、安定的な株主還元を維持してきた。

2017～2018 年に原油価格は概ね 50～70 ドル/bbl 台を回復したが探鉱開発などの上流事業部門の投資が回復しない上流開発企業の事情として借入依存度が 2014 年以前と比べて高い水準に止まっており、フリーキャッシュフローを充当する順序として設備投資よりも債務圧縮が優先されることが挙げられる。メジャー企業の中でも、オクシデンタルによるアナダルコ社の M&A 案件への対応として買収合戦をめぐる価格競争に乗らなかった Chevron が有利子負債の削減を進めているのに対し、ExxonMobil や BP は探鉱開発投資を拡大する一方で有利子負債を増やしているなど対応が分かれている。

M&A を含めたシェール開発や LNG 事業への設備投資に加えて、メジャー企業各社は米国メキシコ湾・南米・アフリカ・北海など深海の探鉱開発への取り組みを強化しているが、石油・天然ガス価格の先行きが不透明な中、大きな設備投資を必要とする LNG 事業に加え、気候変動問題・エネルギー移行への対応と有利子負債削減など財務的な要請のバランスを保つことが課題になっている。

Global Disclaimer(免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構（以下「機構」）調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用であることを明示してくださいようお願い申し上げます。

4 まとめ

メジャー企業の 2019 年第 2 四半期決算は石油・天然ガス価格の下落などにより(アナダルコ社買収契約のキャンセルフィー収入があった Chevron を除き)減収減益となったが、2014 年後半以降の低油価期を通じて継続してきた M&A 戦略による上流資産の開発により石油・天然ガス生産は増加している。米国メキシコ湾や中南米・アフリカなどの深海油ガス田の探鉱開発投資はむしろ活発化している。

財務面に注目すると、低油価期を通じて高くなった借入依存度は低下しておらず、配当や借り入れ返済を先行させなければならない状況が窺われる。引き続き石油・天然ガス価格の先行きが不透明な中、米国系メジャーの ExxonMobil や Chevron を中心にシェール資産の開発が進んでいるが、パリ協定・気候変動問題への関心の高まりを受け、再生可能エネルギーなどへの投資を優先するなど開発に長期を要する上流資源の開発に慎重になる投資家に対する対応の要請も増している。

シェール開発を拡大するもの、より大規模で採算分岐点の低い大水深開発を拡大するもの、天然ガス・LNG・再生可能エネルギーへの投資を拡大するものと、多様化するメジャー企業各社の戦略、今後の動向が注目される。

以 上

Global Disclaimer(免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構(以下「機構」)調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用であることを明示してくださいようお願い申し上げます。